

桐朋

富山キャンパス開設30周年

県民芸術文化祭2025協賛事業
2025秋季コンサート

アカデミー・オーケストラ

スケジュール SCHEDULE



指揮
山下 一史



指揮
キンボー・イシイ



指揮
新田 ユリ



ピアノ独奏
岡田 博美

桐朋学園音楽部門
富山キャンパス開設30周年記念
～バイエルン放送響のメンバーを迎えて～

特別演奏会 9/20 sat

会場／オーバード・ホール 大ホール
開演／14:00(開場13:00)
入場料／3,000円(税込)
(全席自由／友の会会員・学生・生徒・児童 無料)
モーツァルト:交響曲 第36番 八長調「リンツ」KV 425
マーラー:交響曲 第5番 嬰ハ短調

桐朋学園大学院大学
桐朋アカデミー・オーケストラ
協奏曲のひととき

10/18 sat

会場／オーバード・ホール 大ホール
開演／14:00(開場13:00)
入場料／1,000円(税込)
(全席自由／友の会会員・学生・生徒・児童 無料)
独奏／桐朋学園大学院大学生
(オーディション選抜者)

※プログラムは9月に行われる学内オーディションを経て決定されます。

桐朋アカデミー・オーケストラ
第71回定期演奏会

11/1 sat

会場／オーバード・ホール 大ホール
開演／14:00(開場13:00)
入場料／2,000円(税込)
(全席自由／友の会会員・学生・生徒・児童 無料)
ブラームス:ハンガリー舞曲 第1、3、10番
メンデルスゾーン:交響曲 第5番 二長調「宗教改革」作品107(第一稿)
ブラームス:ピアノ協奏曲 第2番 変ロ長調 作品83

桐朋オーケストラ・アカデミー

第53回室内楽定期演奏会 11/7・8 sat

会場／オーバード・ホール 中ホール 入場料／無料(全席自由)
開演／7日 19:00(開場18:00)・8日 15:00(開場14:00)

※学内選抜グループによる室内楽プログラム

※演奏曲目・出演者等は変更になる場合もあります。演奏会等に関する最新情報は、本学ホームページ(<https://www.tohohmusic.ac.jp/orchestra/>)をご覧ください。
※桐朋オーケストラ・アカデミー友の会会員・学生・生徒・児童の皆様は、無料でご入場いただけますが、満席となった際は入場をお断りすることがございます。
あらかじめご了承ください。

※一般有料チケットは8月1日(金)より下記プレイガイドにて発売予定。

【チケット販売所】アスネットカウンター(オーバード・ホール1F)、桐朋学園音楽部門事務局 富山グループ

主催／桐朋オーケストラ・アカデミー、桐朋学園大学、桐朋学園大学院大学、(公財)富山市民文化事業団、富山市、富山市教育委員会、(株)北日本新聞社
後援／富山県、(一社)富山県芸術文化協会

【お問い合わせ】桐朋学園音楽部門事務局 富山グループ TEL.076-434-6800

桐朋
オーケストラ・アカデミー
「友の会」
会員募集中

※公演日当日のご入会は
受付していません。
ご入会方法は、本学ホーム
ページをご覧ください。

演奏を通して、音楽の本質に触れる。

「桐朋オーケストラ・アカデミー」は、プロ・オーケストラ奏者育成のための教育機関として、富山市の協力のもと、1995年9月、呉羽に開校いたしました。開校以来、桐朋学園の伝統である合奏教育を主とした独自のカリキュラムを編成し、

内外の一流の教授陣が指導にあたっています。「桐朋アカデミー・オーケストラ」は、その教育成果を発表する実践の場として、教授陣及び、ここで研修する国内で選抜された学生を中心に組織され、定期演奏会、特別演奏会、桐朋学園大学院大学生をソリストとする協奏曲のひとつとき等の公演を行い、地域の文化活動にも貢献しています。

2025秋季コンサート 出演者プロフィール



9/20 [sat]

指揮／
山下 一史
Kazufumi Yamashita

に留学、1986年デンマークで開かれたニコライ・マルコ国際指揮者コンクールで優勝。

1985年12月からカラヤンの亡くなる1989年までアシスタントを務めた。1986年、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団の演奏会で、急病のカラヤンの代役として急遽ジーンズ姿のまま「第九」を指揮し、話題となる。その成功以来、ザルツブルク・フینگステン音楽祭でカラヤンのスタンバイ指揮者として契約。以後着実にヨーロッパでの実績を重ね、1993年から1998年までヘルシンボリ交響楽団の首席客演指揮者を務めた。

日本国内では1988年「若い芽のコンサート」でNHK交響楽団を指揮してデビュー。オーケストラ・アンサンブル金沢プリンスパル・ゲスト・コンダクター（1991年～

1993年）、九州交響楽団常任指揮者（1996年～1999年）を歴任。また、大阪音大ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団常任指揮者（2002年～2008年）を務め、2005年秋には、新国立劇場より松村鎮三「沈黙」公演が招待され、東京の音楽界にも衝撃を与えた。2008年4月より同団名誉指揮者就任。

2006年4月からは仙台フィルハーモニー管弦楽団より指揮者として迎えられ、R.シュトラウス「英雄の生涯」、シューマン：交響曲第2番・交響曲第4番などのCD制作も行うなど積極的な活動を展開。2009年4月から2012年3月まで同団の正指揮者を務める。

2011年2月にはシューマン作曲歌劇「ゲノフェーファ」日本舞台初演や、2013年1月、2016年3月には水野修孝歌劇「天守物語」、2016年7月に仙台での「コジ・ファン・トゥッテ」公演など、現在、オペラ、オーケストラの両面において着実な成果を積み上げている指揮者として、ますます注目を浴びている。

2016年4月より千葉交響楽団（旧ニューフィル千葉）音楽監督に就任。「おらがまちのオーケストラ」をスローガンに、定期公演のみならず、音楽教室にも積極的に出演、千葉県民一人一人に愛されるオーケストラをめざし、オーケストラの一層の発展に努めている。また、東京藝術大学音楽学部指揮科教授として後進の育成にも心血を注ぐ。

2022年4月より愛知室内オーケストラ音楽監督、大阪交響楽団常任指揮者に就任。

GUEST
バイエルン放送響の
メンバー

ヴァイオリン	アントン・バラコフスキー	Anton Barakhovsky	（バイエルン放送交響楽団首席コンサートマスター）
オーボエ	ラモン・オルテガ＝クエロ	Ramón Ortega Quero	（バイエルン放送交響楽団首席奏者）
トランペット	ハネス・ロイビン	Hannes Läubin	（元バイエルン放送交響楽団ソロ首席奏者）



10/18 [sat]

指揮／
キンボー・イシイ
Kimbo Ishii

NHK交響楽団との共演をはじめ、読売日本交響楽団、東京都交響楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団、大阪交響楽団、京都市交響楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団、札幌交響楽団、九州交響楽団などの主催公演で指揮。また、日本

でのオペラ活動としては、びわ湖ホールオペラビエンナーレ「フィガロの結婚」、関西二期会「魔弾の射手」がある。

12歳で渡欧し、ウィーン市立音楽院にてヴァイオリンをワルター・バリリ、ピアノをゲトルド・クーバセックに師事。その後、ジュリアード音楽院にてヴァイオリンをドロシー・ディレイに学び、1992年に指揮に転向。1993年と1995年のタングルウッド音楽祭に奨学生として参加。指揮を小澤征爾、サイモン・ラトルをはじめとする著名な指揮者に師事。その後、ボストン交響楽団とニューヨーク・フィルの同時契約副指揮者として、小澤征爾氏をはじめ、サイモン・ラトル、バルナード・ハイティンク、アンドレ・プレヴィン等各氏のアシスタントを務めた。

1995年にはニコライ・マルコ国際指揮者コンクール（デンマーク）で入賞。2010年には「第9回斎藤秀雄メモリアル基金賞」指揮者部門を受賞。



11/1 [sat]

指揮／
新田 ユリ
Yuri Nitta

常任指揮者を務める。2000年10月から1年間文化庁芸術家在外研修生としてフィンランド・ラハティ交響楽団にて音楽監督オスモ・ヴァンスカのもと研鑽を積む。以後日本

とフィンランドを拠点とする。クオピオ交響楽団、ミッケリ市管弦楽団、ヨエンスー市管弦楽団、クリスチャンサン管弦楽団、南デンマーク・フィルハーモニー管弦楽団等北欧各国のオーケストラに客演。フィンランドの歴史ある音楽祭からも招聘、2005年～2007年オウルンサロ音楽祭、2006年・2013年・2019年リエクサ・プラスウィークで指揮。またゲルハルト・オピッツ、シプリアン・カツアリス、マキシム・ヴェンゲローフ、ダニエル・ゲーデ、ティボール・ギエンゲ、アルバーナ・ダナイローヴァ、タマーシュ・ヴァルガ、ヨウコ・ハルヤンネ、オイスタン・ボーズヴィーク、ワルター・アウアー等世界的ソリストとも共演。尾高忠明、小澤征爾、秋山和慶、小松一彦各氏に師事。現在、桐朋学園大学指揮科特任講師、相愛大学非常勤講師を務める。日本シベリウス協会第3代会長、日本・フィンランド新音楽協会代表。著書に「ボホラの調べ」（五月書房新社）。



ピアノ独奏／
岡田 博美
Hiromi Okada

（スペイン音楽解釈賞を併せて受賞）、1983年第2回日本国際音楽コンクールピアノ部門第1位、1984年第2回ブレトリア国際コンクールにて第1位（リサイタル賞を併せて受賞）と、次々に優勝を果たし注目を集める。

1984年よりロンドン在住。翌1985年、ロンドンでデビューリサイタルを行い、「まさしく来るべきスター」（デイリー・テレグラフ紙）、「図抜けて確かなテクニックで、創造力に富む情熱的な音楽性」（タイムズ紙）と絶賛された。以後、ロンドンを中心にヨーロッパ各地で演奏活動を続けながら、日本においても、毎年意欲的なプログラムによるリサイタルを開催し、好評を博している。1993年のショパン・エチュード全曲演奏に対して第20回日本ショパン

協会賞を受賞している。オーケストラとの協演も多く、日本フィルハーモニー交響楽団、NHK交響楽団、読売日本交響楽団、東京都交響楽団、東京交響楽団ほか、フィルハーモニア管弦楽団BBC交響楽団、ロイヤル・フィルハーモニック管弦楽団、イギリス室内管弦楽団等、海外のオーケストラとも協演しており、古典から現代曲までの幅広いレパートリーで聴衆を魅了している。2011年は5月にイギリスにてフィルハーモニア管定期演奏会でベートーヴェンの「皇帝」を演奏し好評を博した。その後も11月に日本フィルとショパン「ピアノ協奏曲 第1番」で、2012年1月と9月に東京都響とそれぞれリゲティ「ピアノ協奏曲」とベリオ「協奏曲 第2番「エコーイング・カーヴ」』（日本初演）での協演で好評を博す。

室内楽にも積極的に取り組んでおり、ウィーンフィルのメンバーやヴァイオリンの天満敦子、川島成道らと共演し、話題を呼んでいる。各地の音楽祭へもたびたび出演しており、ラ・ロック・ダンテロン国際ピアノ・フェスティヴァル（フランス）、グレート・ロマンティクス・フェスティヴァル（カナダ・ハミルトン）、イスタンブール国際ピアノ・フェスティヴァル、シュタインバッハ音楽祭（オーストリア）、東京の夏音楽祭、草津音楽祭などに出演。近年は、カナダ、日本でマスタークラスを開催し後進の指導もおこなっている。録音も多く、カメラータ・トウキョウからは継続的にソロ、室内楽の分野でCDが発売され、いずれも高い評価をもって迎えられている。平成27年4月より桐朋学園大学院大学教授に就任。